

心の中に平和の砦を築こう —— 人間の安全保障の促進をめざして ——

開倫ユネスコ協会
会長 林 明夫

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かねばならない。」このユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の憲章前文の精神をふまえ、開倫ユネスコ協会は、「人間の安全保障(ヒューマン・セキュリティ)」の促進を基本理念に 2001 年 1 月より正式な活動をスタートしました。

安全を保障するものとして、国家の安全保障と同様に、一人ひとりの安全に目をむける「人間の安全保障」の大切さは、近年広く認められるところとなりました。一人ひとりの人間の「保護」と「能力強化」を内容とする「人間の安全保障」は、日本外交の基本政策の一つにもなっています。

開倫ユネスコ協会では、「人間の安全保障」の促進のため、一人ひとりの「保護」と「能力強化」をめざし様々な活動を行っております。

創造性を育む「童話大賞」、Love and Peace をテーマとした「デザイン大賞」、心の平和を表現する「ポエム(詩)大賞」、新聞を読んで考える力を育む「エッセイ大賞」、子どもは風の子元気な子、子どもの健全育成をめざす「ドッジボール大会」「ミニバスケット大会」などを毎年 1 回定期的に開催させて頂いております。

また、人間の安全保障とは何かを考える「人間の安全保障フォーラム」、世界や日本、栃木のよさや大切に守るべき文化を考える「師を囲む会」も毎年 1 回定期的に開催させて頂いております。

更に、毎年 8 月 15 日の終戦記念日の正午に、人類社会の平和を願い、身近にある音の鳴るものを使い心を込めて音を鳴らす「平和の鐘を鳴らそう」運動を展開しております。そして足利市では、足利仏教会等の御協力のもとに市内のお寺等の鐘も一斉に鳴らされております。皆様の御協力によりこの運動は、足利市の 8 月 15 日の文化の一つになりつつあります。

国際連合では、「すべての人に教育を(Education For All エジュケーション・フォー・オール)」を宣言、ユネスコはその推進母体となっております。開倫ユネスコ協会は、開発途上国の読み書きのできない人を減らし、識字率向上を図るため「世界寺子屋運動」に取り組んでおります。家庭や職場に眠っている書き損じハガキを回収させて頂き、ユネスコ協会連盟に送付。それを連盟で 1 枚 45 円に換金し、開発途上国での先生の採用や学用品購入など、読み書き能力の向上(一人ひとりの能力強化)に役立てております。

開倫ユネスコ協会は、正式発足から 5 年という若いユネスコ協会ですが、与えられた社会的使命(mission ミッション)を少しでも多く果たすため、地域ユネスコ協会の御指導のもとこのように一所懸命頑張っております。